

# 三心を磨く

学校だより NO. 21  
平成30年 7月6日(金)発行  
須坂市立東中学校  
文責：金井勝久(教頭)  
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

## ◇◇◇「アズマデー」より、それぞれの学年の活動の様子 ◇◇◇

1年間に2度ある「アズマデー」ですが、その第1回目が6月29日(金)に行われました。1年生は「職場見学」、2年生は「職場体験」を、そして3年生では「福祉体験学習」や「進路講話」が行われました。

### ◇◇1年生は「職場見学」～学年生徒が2つのコースに別れ、職場見学へ～◇◇

1年生は、午前中を使って「バス」で職場見学に行きました。学習のキーワードは「知る」、今回は「さまざまな職業を知る」ことを目的とし、須坂市内の4つの事業所(アズザックフーズ・須坂新聞・後藤農園・塩尾醸造)の見学をしました。1年生は事前学習をしっかりと進め、働く事への疑問や質問を準備し、実際の見学をした上で生まれた質問と合わせて事業所の方々いろいろなことを積極的に聴きました。



また、見学だけではなく、体験(新聞づくり)などもさせていた

【後藤農園さんでお話を聴きました】

だけました。さらに各所でいろいろなものを「試食」もさせていただき、お土産もいただき、生徒たちはご満悦!この経験が、来年の「職場体験」につながって行くはずです。

午後は、スクールサポーター工藤さん 須坂警察署生活安全課の草間さんからお話を聴き、「薬物乱用防止」について



【塩尾さんでは味噌蔵に入りました】

考えました。暑い中でしたが、自分の事としてしっかりと聞くことができました。

### ◇◇2年生は「職場体験学習」◇◇

#### 「働くことの楽しさや厳しさ」を学びました!

2年生は、28・29日と2日間、「職場体験学習」を行いました。2年生のキーワードは「体験する」です。実際に職場で働くことを体験し、働く意義を考えることが目的でした。

生徒たちは自分が選んだそれぞれの事業所で、2日間実際に働いてみることから「働くことの生きがい」

や「働くことの意義」を考え、「自分の未来のために何が必要か」について向き合いました。

事業所の方々からは「やる気がある」「大きな声でできる挨拶が素晴らしい」「積極的に質問ができる生徒で気持ちよかった」「一生懸命さが表れていた」「園児と同じ目線でかかわれた」などといったお話をいただきました。各事業所で生徒たちが頑張っている様子が目に浮かび、伝わってきました。





また、生徒の様子を巡回した職員からは、「いつもとは少し違った素敵な一面が発見できた」「言われたことだけでなく、自ら考えて働く姿があった」「表情がとても生き生きとしていた」など、生徒たちの新たな輝きの姿の報告がありました。

働くことが簡単でないこと、一人の大人としての立ち振る舞いが求められること、お父さんやお母さんの大変さを感じられたこと、これらも大きな収穫です。10月18・19日には2回目が予定されています。今回の体験を見返し、よい準備をしてほしいと思います。

## ◇「深い学び」をした3学年「福祉の学習」と「進路学習」の様子◇

～須坂手話サークルの方々と共に学び、何かを感じ、何かをつかみ始めている3年生～

3年生のアズマデーは、先日からの「前期人権教育月間」に引き続き、「福祉」について本気で考え、向き合う時間となりました。3年生のキーワードは「考える」です。義務教育を終え、3月には巣立っていく3年生に、福祉学習を通して自己の生き方を見つめ、幅広い視野で社会の中での「自分の役割」や「自分らしい生き方」を考え、自分の進路選択に生かしてほしいと願っています。

そんな中で、まずは「あいサポート研修」をしました。県の社協より馬場さんをお招きし、多様な障がいの特性について理解し、日常生活の中で障がいのある方が困っている場面を見かけたら、自分から声をかけ、手助けをするなどについて学びました。真剣に話を聞く3年生の姿が印象的でした。昨年度、本校は県内小・中・高等学校の中で、唯一「あいサポート団体」の認定を受けた学校です。この活動は、本校の伝統の1つとしてこれからも大切につないで行きたいと思います。

講演会に続いて、須坂手話サークルの長坂さんのお話を聴いたり、手話サークル皆さんとの交流会をしたりしました。

交流会では、実際に手話を教えていただき、「聞こえない」ことや「しゃべれない」ことなどの障がいなどを感じさせない「心が通い合う世界」が体験でき、「共に楽しむこと」もできた、素晴らしい学びの場となりました。

交流会場には「心の壁」がなくなり、文字通り「バリアフリー」となり、素敵な時間を過ごすことができました。この交流をとおして、「人権学習」も深められたように思います。

活動を終えて「生徒たちの感想から」（一部抜粋）

- ・これまで障がいのある人を見ると、ちょっと避けてしまう自分がいたけどこれからは変わりたい。
- ・手話って「言葉」なんだってわかった。手話を遠い存在でなく、身近な存在にしたいと思った。
- ・「ももたろう」の劇をしてくださった皆さん、聞こえるとか聞こえないとか関係なしに、人として皆さん、とても素敵な方々ばかりでした。一生懸命演じてくれた「ももたろう」の劇をみて、本当に感動しました。

※このように生徒たちは、自らの目を見て、聞いて、ふれて、味わって、体験などを通して自分の感性を磨き、豊かにしていきます。これからの成長が楽しみです。

